

標 題： Dietary Fat, Olive Oil Intake and Breast Cancer Risk
食事脂肪、オリーブ油摂取と乳癌リスク

著 者： J. M. Martin-Moreno, et al. (米国 ハーバード大学公衆衛生学部、
スペイン マドリード公立大学、イタリア ヨーロッパ腫瘍研究所、他)

掲 載 誌： Int. J. Cancer 58: 774-780 (1994)

要 旨： スペインにおける食事と乳癌に関する住民に基づく症例 - 対照研究の一部として、乳癌の原因としての食事脂肪および植物油の役割を観察した。
乳癌と新たに診断され組織学的に確認された 18 - 75 歳の女性 762 人、およびランダムに選ばれた対照の女性 988 人が半定量食事頻度アンケートを完了した。
食品および栄養素ごとに被験者を摂取値によって 4 分割し、最少の区分を基準とした。
総エネルギー摂取および他の潜在的交絡因子の補正には、全女性および閉経前と閉経後の女性に分けての多重ロジスティック回帰を用いた。

総脂肪摂取量も特定の種類の油脂も、閉経前と後の女性とも乳癌と有意に関連しなかった。

しかしオリーブ油(1 価不飽和脂肪が高い)の高い摂取量は、乳癌の低いリスクと有意に関連し[摂取量の最大対最小で(4 区分)オッズ比(OR)= 0.66 ; 95%CI 0.46 - 0.97] 有意な量依存傾向であった。

これらの結果は総脂肪摂取量と乳癌リスクとの関連を裏付けはしないけれども、オリーブ油と乳癌との逆の関連を提示する(1 価不飽和脂肪との逆の関連が示唆される)。
